

令和3年度 授業改善推進プラン〈技術・家庭〉

● 技術・家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

本校の教育重点目標にある「自分で課題を見つけ課題をつくり、その課題の解決を図ろうとする生徒」に関しては、おおむね満足できるが、まだ教師からの指示待ち状態で自己解決力に乏しい生徒も見られるので指導に工夫が必要である。

また、「向上心を持って主体的に学習に取り組む生徒」に関しては、教材研究や授業環境の整備など授業形態や授業方法を工夫し、改善がみられている。

● 技術・家庭科における分析と課題

〈技術分野〉

最後まで作品を完成させ、完成度を高めるというやる気と根気を養わせたい。そのため、教材にこだわることで関心を引き出したい。しかし、多少のつまずきであきらめてしまう生徒や、完成度を高める意識が乏しい生徒も多少いるので手立てが必要である。特に情報分野では、得手不得手が顕著に出やすいので、支援が必要である。

安全に対する意識や危機管理に対する意識は概ね高いが、安全に作業する環境をつくれぬ（整理整頓ができない）生徒がみられる。ものづくりを通して、ものを作る喜びや達成感を味わわせたいが、個別の支援を必要とする生徒もいる。

〈家庭分野〉

小学校での学習内容の定着度に差があることから、既習の内容を含めた基礎・基本の学習内容の定着を図る必要がある。定着が不十分な生徒には個別指導が必要である。また、学習活動の中で生徒が主体的に取り組めるような教材の開発、授業展開の工夫が課題である。

課題発見、課題解決する力について、実生活での経験、ふり返り活動を通して課題解決を図ろうとする生徒が増えてきている。さらに体験的・実践的な学習を多く取り入れ、自分自身だけではなく家族、家庭、地域に視野を広げ、様々な角度から物事を考えられる力を身につけさせたい。

● 技術・家庭科における授業改善のための具体的な取り組み

〈技術分野〉

第1学年：小学校の学習内容の復習を兼ねた基礎・基本の習得に重点を置いた題材を選んだ。製作前に、技能の習熟を図るため、実習の時間を出来るだけ多く取り、ものづくりの基礎となる道具や工具の使い方を体験的に学ぶことによって、安全かつ適切に扱うことのできる技能を身につけさせる。

第2学年：日常生活に関係のある題材を取り上げ、それをいかに生活の中で生かしていくかを考えながら基礎・基本の定着を目指す。特にエネルギー変換では、電気についての基本知識や利便性に触れると共に、感電・漏電など、身の安全にかかわる分野を充実させる。栽培分野では、実際に作物を育てることで体験的な学習を意識する。水やりなど日頃の世話の重要性に気づかせる。情報分野では、情報を安全に取り扱うと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう情報モラルに対する意識を高める。情報化社会に適応できるようにコンピュータ利用についての基礎・基本を習得させ、社会に通用する技能を身につけさせる。

第3学年：情報を安全に取り扱うと共に、犯罪に巻き込まれないための知識と共に、加害者にならないよう意識を高める。特に、著作権や肖像権などに重点を置く。情報化社会で適応し、応用できるようコンピュータの基礎・基本を習得させる。特に、プレゼンテーション用ソフト（Power Point）を用いたプレゼンテーションの実習を行い、高度なプレゼン力を身につけさせたい。また、プログラミングでは双方向性のあるコンテンツを用いる。

〈家庭分野〉

第1学年：小学校の内容をフィードバックしながら、繰り返し学習することにより、基礎・基本の定着を図り、実習を通して楽しさや達成感を味わわせる。また、ICT機器を積極的に活用しながら知識、技能の習得につなげる。食生活の自立のために、中学生や家族の食生活、環境問題に関する課題を見つけ、問題解決する力を身につけさせる。

第2学年：衣生活・住生活の自立のために、実生活や既習内容をフィードバックしながら、自分自身および家族の課題を見つけさせる。浴衣の着装の授業を行い、日本の伝統文化に直接触れる機会を。また、作品製作を通して技能を習得させ、ものづくりの楽しさや達成感を味わわせる。目的に合わせて一斉指導と個別指導を行い、進度の遅い生徒に対しては教え合い学習を積極的に行い、教えることによる技能習得の定着も図る。

第3学年：幼児に関する様々な課題について家族や家庭、地域、社会とのかかわりを考え、積極的に解決しようとする力を育てる。また、作品製作を通して、幼児とのかかわり方や幼児の発達についての基礎基本をふり返らせ、学習内容の定着を図る。3年間のまとめとして、これからの持続可能な社会を展望し、自らの力でよりよい生活を創造しようとする態度、生きる力を身につけさせる。